

保 健

(11) 保 健

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 保健の見方・考え方を働かせながら課題解決を図り、学習活動を通して健康の大切さを実感できるための工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 ・健康などに関する課題を解決するために、児童による話し合いや発表、教師による資料の提示などを行うことにより、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、I C Tを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 望ましい生活習慣に関する指導や安全に関する指導を重視し促進するための工夫 (6) 児童の健康・安全に関する身近な課題に対する主体的な学習活動を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	新しい保健	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の興味・関心を喚起できるよう〈気づく・見つける〉活動が、すべての単元で設定されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうというたからもの」のステップ1〈気づく・見つける〉では、「ずっとけんこうでいられますように」と書かれた七夕の短冊の写真を示し、「なぜ、けんこうであるようにねがうのですか」と問いかけることで、児童の興味・関心が喚起されるよう工夫されている。(P4～5)

〔5・6年〕「病気の起こり方」のステップ1では、かぜをひいて手当をされている写真を示し、「私たちは、どんなときにかぜをひくのでしょうか」と問いかけることで、児童の興味・関心が喚起されるよう工夫されている。(P48～49)

- 多様な考えが交流されるよう〈深める・伝える〉活動が、すべての単元で設定されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうによいかんきょう」では、ステップ3〈深める・伝える〉において、ステップ1で気づいたことと、ステップ2〈調べる・解決する〉で調べたことをもとにして、身の回りの環境をどのように整えたらよいかについて、考えを深めたり、話し合ったりする活動が設定されている。(P21)

〔5・6年〕「事故やけがの原因」では、ステップ3において、ステップ1で気づいたこととステップ2で調べたことをもとにして、「ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書きましよう」という発問が準備されており、積極的に友だちに伝えることや友だちの意見を聞いて考えを深めることができるよう配慮されている。(P23)

- より理解を促すためのインターネットを用いたデジタルコンテンツの情報が豊富に掲載されている。

【例】

〔3・4年〕「よりよく成長するための生活」では、体がよりよく成長するために、適切な運動、バランスのとれた食事、十分な休養・睡眠を毎日続けることの必要性が書かれており、さらに理解を促すため「スポーツ選手にインタビュー」という動画が準備され、インターネットを用いて視聴できるよう工夫されている。(P39)

〔5・6年〕「けがの手当」では、指を切ってしまった場合や転んで膝をすりむいてしまった場合などの手当の方法が示されており、「けがの手当をしよう」という実習を行うことができるようになっている。その際に、児童が実習を行いやすいように、インターネットを用いて技能内容を視聴できるよう工夫されている。(P44)

- 全ての単元が4ステップ構成となっており、分かりやすい授業構成となっている。

【例】

〔3・4年〕「育ちゆくわたしたちの体」では、ステップ1では今の自分と赤ちゃんの頃の自分を比べることで体の成長に気づき、ステップ2では身長伸びをグラフにすることで成長を確認できるようになっている。そして、ステップ3では自分の成長を振り返り、ステップ4では学んだことをまとめられるよう構成されている。(P24～30)

〔5・6年〕「生活習慣病の予防」では、ステップ1では日頃的生活行動を振り返ることで気づきを促し、ステップ2では生活習慣病の要因や予防方法を調べるようになっている。そして、ステップ3では、お菓子を過剰摂取しているさし絵をもとに、多様な意見を出し合い、考え

を交流する場面が用意され、ステップ4では学んだことをまとめられるよう構成されている。
(P57～62)

- グラフやさし絵を効果的に用い、児童が視覚的に生活習慣や安全に関して理解しやすいよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「けんこうによい1日の生活」では、元気がないたくみさんの1日と、元気いっぱいあやかさんの1日を円グラフにして比較することにより、規則正しい1日の生活リズムを視覚化し、重要性が伝えられている。(P12～13)

[5・6年]「事故やけがの原因」では、児童にとって身近な危険場所である交差点、公園、運動場などをさし絵で示し、怪我をしたり事故が起きそうな場面を探して○をつける学習活動を通して、自分事として怪我や事故について学ぶことができるよう工夫されている。(P20～21)

- 主体的な学びを支援するために<はってん>マークがつけられた資料が多く用意されている。

【例】

[3・4年]「けんこうというたからもの」では「体の部分の名前」について、「育ちゆくわたしたちの体」では、「骨や歯の発育」についてそれぞれ説明が記載されており、心身の成長が著しい中学年の児童が、主体的に学べるような発展内容の資料が準備されている。(P10、P30)

[5・6年]「心と体のつながり」では、一流のスポーツ選手から学ぶ「きん張を味方にする方法」について、「喫煙の害と健康」では、現代的な課題である「さまざまな依存症」(アルコール、ゲームなど)についてそれぞれ説明が記載されており、思春期の入り口にいる高学年の児童が主体的に学べるような発展内容の資料が準備されている。(P12、P66)

- 外国語科、理科、家庭科など、積極的に他教科と関連づけた内容構成がとられている。

【例】

[3・4年]「けんこうというたからもの」では、「体の部分の名前」において名称に英語表記がつけ加えられており、外国語活動との関連が図られている。また、「思春期にあらわれる変化では、思春期の体つきの変化を学ぶ内容において、5年生の理科「人のたん生」との関連が図られている。(P10、P35)

[5・6年]「交通事故の防止」では、交通事故を防止するための学習において、3年生の社会科「地域の安全を守る働き」との関連が図られている。また、「病気の起こり方」では、かぜなどの病気が起こる要因を調べたり、解決したりする学習において、5・6年生の家庭科「快適な住まい方」との関連が図られている。(P31、P51)

2 使用上の便宜

- 学習指導要領の配列に合わせ、各学年の内容が配列されている。また、示された内容の所定配当時数内での指導が可能なように構成され、確実に学べるよう配慮されている。
- 判型はA4版で、児童が思考・判断したことを表現するための記入スペースが豊富に設けられ、ワークシートのように活用できるよう配慮されている。
- 目次は、単元名と資料のそれぞれについて示されている。また、第3・4学年の教科書の巻末に次学年の目次を掲載し、見通しを持って学習できるよう配慮されている。
- 文節改行を基本とし、文章が読み取りやすいよう工夫されている。また、毎時、学習の進め方を示すことで、授業の見通しをもって学習できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	たのしい保健	4 大日本

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 知識・技能の定着を図り、さらに学びを深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「1日の生活のしかた」では、自分の1日の生活を振り返り、どのようにすれば規則正しい生活ができるようになるのかを伝え合う活動が設定されており、友だちとの対話によって様々な見方や考え方を知り、思考を深められるよう工夫されている。(P10～11)

〔5・6年〕「けがの手当」では、すり傷や打ぼく・ねんざ、鼻血などに対して、自分で手当ができる技能が身につけられるようになっている。また、怪我をした場面において、友だちにどのように伝えればよいのかについて考えることにより、思考を深められるよう工夫されている。(P31)

- 話し合う活動が設定された学習構成がとられている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな生活」では、「けんこうだと思うのは、どのようなときでしょうか」、「大人の体になるじゅんび」では、「みなさんと大人では、体つきにどのようなちがいがあるのでしょうか」等、友だちと話し合う活動が設定されている。(P8、P26)

〔5・6年〕「不安やなやみがあるとき」では、「不安やなやみにはどのようなものがあるのでしょうか」、「けがの手当」では、「けがをしたときには、どのように行動していますか」等、友だちと話し合う活動が設定されている。(P12、P30)

- ICTを使える内容には<ウェブ>マークがつけられ、動画や資料を使って学習できるよう配慮されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうによい生活かんきょう」では、早寝・早起き・朝ご飯という規則正しい生活ができるようウェブサイトが用意されており、インターネットを用いて視聴し、学習に役立てられるよう配慮されている。(P18)

〔5・6年〕「薬物乱用の害と健康」では、薬物が体にもたらす危険性を学ぶとともに、麻薬・覚せい剤乱用防止センター（「ダメ。ゼッタイ。」）のウェブサイトを紹介し、インターネットを使ってさらに深く学べるよう配慮されている。(P51)

- 「やってみよう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」の3点で授業構成されており、シールを使って振り返りができるよう工夫されている。

〔3・4年〕単元の最後には、3年のまとめ（毎日の生活とけんこう）、4年のまとめ（育ちゆく体とわたし）というように学習のまとめのページが設けられている。そして、巻末についている3段階のシール（十分分かった・できた/だいたい分かった・できた/もう少しがんばりたい）によって、学んだことを振り返られるよう工夫されている。(P20、P36)

〔5・6年〕「不安やなやみがあるとき」では、「やってみよう」において、心や体がリラックスする呼吸法が学習内容として位置づけられている。そして、「話し合ってみよう」では、不安や悩みを軽くする方法について話し合う場面が設定され、「活用して深めよう」では、不安や悩みを軽くする自分なりの方法を探す学習活動が設定されている。どの単元においても、学習の見通しをもって学ぶことができるよう配慮されている。(P12～13)

- 日常生活を振り返るためのチェック欄を設けたり、様々な事故や怪我についてデータを示したりすることで、児童が健康で安全に生活ができるよう配慮されている。

【例】

[3・4年]「1日の生活のしかた」では、朝の生活の仕方について6項目（あいさつをする、歯みがきをする等）、昼の生活の仕方について4項目（給食をのこさず食べる、元気に運動して遊ぶ等）、夜の生活の仕方について6項目（宿題をする、家事をてつだう等）の具体的なチェック項目が示され、児童が日常生活を見直しながら、規則正しい生活の仕方を学べるよう工夫されている。（P10～11）

[5・6年]「けがの原因」では、学校内の事故や怪我だけでなく、交通事故、水の事故、犯罪被害について、どのような場所で発生し、何をしている時に起こりやすいのかについて円グラフで示すことで、様々な事故や怪我に対して注意を促している。（P20）

- <はってん>マーク、<もっと知りたい！>によって、児童の主体的な学習を促すよう工夫されている。

【例】

[3・4年] <はってん>マークがつけられた「受けつがれていく命」では「育ちゆく体とわたし」の学習を踏まえ、胎児がお母さんのお腹の中で大切に育てられて誕生してきたことを記載し、命の尊さと大切さを伝えている。（P37）

[5・6年] <もっと知りたい！>では、現代的な課題である「がんの予防」「目の健康を守ろう」「たばこのけむりのおもな成分」「オリンピック・パラリンピックとたばこ対策」等について取り上げ、児童が主体的に学んだり、調べたりできるような内容構成となっている。（P54～55）

- 家庭科や算数科など他教科との関連や、保健における他学年との関連を意識した内容構成がとられている。

【例】

[3・4年]「体のせいけつ」では、目には見えない汚れや汗についての学習において、5・6年生の家庭科「衣服の着用と手入れ」との関連が図られている。また、「大きくなったわたし」では、自分の身長の変化をグラフにする活動において、3年生の算数科「小数のひき算」「ぼうグラフ」との関連が図られている。（P15、P25）

[5・6年]「生活のしかたと病気の予防①」では、3年生の保健「けんこうな生活」との関連が図られている。（P42）

2 使用上の便宜

- 学習内容の系統性、領域のバランス等を総合的に配慮された単元配列となっている。また、各学年の発達段階を踏まえ、授業時間数を考慮した学習内容で構成されている。
- 判型はA B版であり、記入欄が多く設定されていることで、児童が書き込んで学びやすいよう工夫されている。
- 第3・4学年の教科書には、各学年の目次を掲載することで見通しを持って学習ができるよう配慮されている。また、必要に応じて脚注がつけられ、他教科との関連が図られている。
- 児童が学習しやすいよう教科書のフォントや配色について、ユニバーサルデザインに配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	わたしたちの保健	207 文教社

- 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫
○ 課題解決からさらなる思考が深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「1日の生活リズム」では、写真やイラストなどを用いて、これまでの自分の生活を振り返ることができるよう工夫されている。そして、自分の課題を発見させ、解決していくために基本となる正しい行動（しっかり運動、きちんと食事、十分な睡眠など）を学習し、学習したことをもとによりよい生活リズムを考えさせるよう構成されている。（P6～9）

〔5・6年〕「学校生活でのけがの防止」では、イラストを用い、学校の中で怪我をしそうな場所を振り返ることができるよう工夫されている。そして、自分たちの課題を発見させ、課題を解決していくために、多くの資料や他の児童との話し合いの中から課題の解決をさせ、いろいろな場面から怪我をしないためにどうすればよいのかを考えさせるよう構成されている。（P15～17）

- 資料や体験などをもとに自分や他者と考えを交流し、言語能力を育成するよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の発育」では、これまでの自分の身長や体重の変化を調べ、いつ頃変化が起こったのかなどを振り返ることができるよう工夫されている。そして、他の児童の身長や体重の変化を自分と比べ、その変化の違いがなぜ起こっているのかなど身近なことを話し合わせることで、自分の言葉で表現しやすくなるよう工夫されている。（P18～21）

〔5・6年〕「不安やなやみへの対処①」では、これまでに経験した不安や悩みを振り返ることができるよう工夫されている。そして、不安や悩みを解消・解決するには、どう対処するとよいのかを経験や資料をもとにして自分の考えを整理させたり、話し合わせたりすることで、自分の言葉で表現しやすくなるよう工夫されている。（P8～10）

- ICTを活用し、自ら情報を収集する能力を育成するよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体のせいけつ」では、教科書に示された二次元コードを使い、一日着た衣服には、襟や袖などに汚れがたくさんついている様子を動画で視聴できるページにアクセスできるなど、さらに学習を深めるための情報を自分たちで手に入れられるよう配慮されている。（P12）

〔5・6年〕「地域での安全」では、身の回りの危険や犯罪被害を防ぐためにどうしたらよいのかを考えることができるよう工夫されている。教科書に示された二次元コードを使うと消防庁や警察庁などのホームページへアクセスでき、他に身の回りにはどんな危険や犯罪被害があるのかなどのさらなる知識を自分たちで入手できるよう配慮されている。（P22）

- 単元全体を捉えた文章で見通しをもち、最後に全体を捉えた振り返りを行えるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「毎日の生活とけんこう」では、導入で単元全体を捉えた短い文章を示すことで、どのようなことを学習するのか見通しをもてる構成になっている。単元の最後に「わたしのけんこうせん言」として、これまでの学習を振り返り、どんなことを大切にこれから生活していきたいかを考えさせるという構成になっている。（P2～16）

〔5・6年〕「病気の予防」では、導入で単元全体を捉えた短い文章を示すことで、どのようなことを学習するのか見通しをもてる構成になっている。単元の最後は「わたしのいきいき宣言」として、これまでの学習を振り返り、病気にならずに過ごしていくためにどうしたらいいかを

考えることができるよう工夫されている。(P30～52)

- 体験活動や家庭・地域と連携し学習が進められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体のせいけつ」では、実際に自分の手の汚れを知るために、脱脂綿を使って自分の手の汚れを確認したり、寒天を使って洗っていない手と水で洗った手、石けんで洗った手の細菌の有無や細菌の量について知ったりするなど、体験を通して学習を深めるよう工夫されている。(P11)

〔5・6年〕「地域での安全」では、危険や犯罪から身を守るために、地域に「こども110番の家」があったり、地域パトロールの方がいたりして、自分たちを危険や犯罪から守ってくれているということを知ることができる。また、着衣泳を行うことで、水の事故から自分の身を守る方法を体験して学習することができるよう工夫されている。(P21～23)

- 興味・関心を高めることにより、主体的な学習活動を促すよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体のよりよい発育」では、〈もっと知りたい〉や〈発てん〉マークを用い、学習したことの詳細な知識として適切な睡眠をとるための具体的な方法を知ることができる。また、体のよりよい発育と新体力テストを関連させ、運動や朝食、睡眠の大切さについてもより感じさせることできる。そのことにより、自ら運動に取り組み、よりよい睡眠をとろうとする気持ちを高められるよう配慮されている。(P28～31)

〔5・6年〕「病気の起こり方」では、〈情報コーナー〉や〈発展〉マークを用い、目や鼻、口などの体の仕組みをさらに知ったり、「せきやくしゃみが出るのはなぜか？」などのさまざまな疑問を解決したりする中で、児童の「体の仕組みがしっかり働くようにするにはどうしたらいいか」という追究したい気持ちを高められるよう配慮されている。(P30～33)

- 教科の横断的なつながりを大切にするよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「思春期の体の変化②」では、体の中に起こる変化につながっていく内容を、「体のよりよい発育」では、五大栄養素やバランスのよい献立作りなどにつながっていく内容をそれぞれ学習する。これらの学習は、5年生の理科や第5・6学年の家庭科との関連が図られるよう配慮されている。(P24～31)

〔5・6年〕「地域での安全」では、自分たちの地域の危険箇所などについて知ったり、地域における防犯上の課題を考え、「地域安全マップ」を作成することで、3年生の社会科や総合的な学習の時間との関連が図られるよう配慮されている。(P21～23) また、「けがの防止」では、自助・共助・公助について学ぶことができ、5年生の社会科との関連が図られるよう配慮されている。(P28～29)

2 使用上の便宜

- 学習活動の流れは、課題提示から解決に至るまでの学習指導上の順序性が考えられており、1単位時間あたりおおむね2～3ページで構成されている。
- 版型はA4判で作られている。思考力・判断力・表現力等を高められるよう、記入スペースが多く設けられている。
- 目次は1ページに収められていて、各単元の単元名が色分けされている。必要に応じてページ下方に脚注が記載され、児童に多角的な観点を提示することで、学習意欲が向上するよう工夫されている。
- 書体や文字の大きさ、ルビの添付等児童にとって読みやすい教科書となっている。また、キャラクターが対話形式で登場することにより、児童の思考を手助けするよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	小学保健	208 光文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 保健学習にかかわって、児童を学びに向かわせ、深い学びができるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな生活」では、健康の意義や重要性について疑問を投げかけている。(P7)そして、単元の終わりに「早ね早起き朝ごはん」や「スマートフォンやタブレットの使い方と生活のリズム」などについてふれ、知識の獲得だけでなく、様々な視点で考えられるよう配慮されている。(P14～15)

〔5・6年〕「病気の予防」では、病気にならないためにはどうしたらよいのか疑問を投げかけている。(P39)そして、単元の終わりに「エイズ」や「新しい感染症と再び注目された感染症」など、発展的な学習についてふれられている。(P46～47)

- みんなで自分の考えを出し合い、学習課題を解決できるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体のせいけつ」の〈考えよう〉では、どんな手洗いをするとよいのかについて考えることができるよう工夫されている。また、〈話し合おう〉では、どうして毎日ハンカチや衣服を取りかえるのかについて話し合えるよう工夫されている。さらに、〈学んだことを生かそう伝えよう〉では、話し合ったことを生かし、体を清潔に保つためにこれから気をつけたいことや心がけたいことを振り返ることができるよう工夫されている。(P16～17)

〔5・6年〕「交通事故の防止」の〈考えよう〉では、絵の場面を見て、どんな危険があるのかやどう行動するのがよいのかについて考えられるよう工夫されている。また、〈話し合おう〉では、交通事故を防ぐためにカーブミラーと横断禁止の標識をどこに設置するとよいのかについて話し合うことができるよう工夫されている。さらに、〈学んだことを生かそう伝えよう〉では、自分の身近な場所で交通事故が起きそうな場所を思い浮かべ、どう行動するとよいのかや、考えた理由についての記述欄が設けられている。(P26～27)

- ICT機器を使うことで、学習内容の理解を促すよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな生活」では、二次元コードを用い、手の汚れや衣服の洗い方について、ICT機器を使って動画を見ることができるよう工夫されている。(P16～17)また、インターネットを活用して朝食の大切さについて詳しく調べることができるようWEBサイトが記載されている。(P10)

〔5・6年〕「心の健康」では、二次元コードを用い、心と体の関わりについて、ICT機器を使って動画を見ることができるよう工夫されている。(P13)また、WEBサイトが記載されており、インターネットを用いて呼吸の方法や効果について詳しく調べることができるよう工夫されている。(P18)

- 単元の終わりに、学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の発育と健康」では、学習したことを振り返るための問題が用意されている。また、自分の生活に一番生かしたいと思った学習について、理由を記述することができるよう工夫されている。(P40)

〔5・6年〕「けがの防止」では、学習したことを振り返るための問題が用意されている。

また、内容が記載されているページ番号を明記することで、復習できるよう工夫されている。(P38)

- 絵図で示したり、比較したりすることで、望ましい生活について理解を促すよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「けんこうな1日の生活」では、規則正しい生活をする意味が理解できるよう、生活のリズムが崩れることによる影響について、絵図で示されている。(P13)

〔5・6年〕「生活習慣病の予防②」では、毎食後の歯みがきや口濯ぎをしない生活と、毎食後に歯みがきや口濯ぎをしている生活を、絵図を用いて比較し、歯が溶けやすい状態がどちらなのかが一目で見てわかるよう工夫されている。(P51)

- 保健の大事さを伝えたり、身近な課題を取り上げたりすることで、児童が保健学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕保健学習の導入にあたり、保健の大切さについて語ったトップアスリートのメッセージや、身近な例で保健を学ぶことの意義を描いた漫画が紹介されている。(P1～2) また、巻末ページの「共に生きる社会のために」では、身近な場所で目にするマークの意味を理解し、自分にできることを考えさせることで、一人一人がお互いを尊重して支え合って生活をしていく大切さを伝えられるよう工夫されている。(P41)

〔5・6年〕「自然災害から身を守る」では、発展的な内容として、災害が起こった時にどのような危険があるのかや、危険を避けるためにどのように行動するのかを考えることができるよう工夫されている。(P36～37) また、巻末ページの「共に生きる社会のために」では、国際シンボルマークや障がい者スポーツにふれることで、共生社会のための一人の人間であることの理解が促されている。(P65)

- 学習活動を充実させるため、他の教科との関連が図られている。

【例】

〔3・4年〕「変化していく体」では、第1学年から第4学年までの自分の身長を表に書き表し、それぞれの一年間に伸びた身長を計算することで、算数科で学習する長さの単位や小数のひき算を生かして考えられるよう工夫されている。また、マークを用い、横断的な学習であることが明記されている。(P24)

〔5・6年〕「喫煙の害」では、たばこの煙の中の主な有害物質（主流煙と副流煙）についてふれ、中学校の内容につながる系統性のある指導ができるよう配慮されている。(P55)

2 使用上の便宜

- 学習内容は、児童の発達段階に応じ、日常生活での実践につなげることができるよう工夫されている。
- 版型は全ページカラー印刷のA4版で、写真やイラストも大きい。また、記入欄が大きく、自分の考えを十分に書くことができるようになっている。
- 目次は、学習する内容をイメージできるように、単元名の下に問いかけが示されている。単元ごとに脚注があり、学習への意欲をもたせることができるよう工夫されている。
- 文章が簡潔になっており、重要な事項については太字や色文字で目立たせている。また、未習の漢字にルビを用いることで、児童の読みの負担が軽減されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
保 健	みんなの保健	224 学研

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 単元ごとに最初に学習を行う意味を明確にし、小単元の終わりにはさらに学習を深められるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「健康な生活」では、単元の最初に、毎日を健康で過ごすためにどんな生活を送ればよいのかについて、自分の生活を振り返って考えることが明記されている。(P5) また、小単元の終わりでは、手の洗い方やみんなの健康を守るための活動などについてふれ、実践的な学習ができるよう工夫されている。(P16～17)

〔5・6年〕「心の健康」では、単元の最初に心の発達の仕方や悩みなどを抱えた時はどうしたらよいのかなどについて、自分の経験から課題を見つけ、考えることが明記されている。(P5) また、小単元の終わりには、自分のよい所を発見したり、思春期の心についてふれたりするなど、自分の経験を振り返りながら学習を深めることができるよう工夫されている。(P8～9)

- 自分の考えをもったり、みんなで話し合ったりすることによって学習課題を解決できるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の清けつ」の〈考える・調べる・話し合う〉では、なぜ下着やハンカチを身につけるのかについて話し合い、考えられるよう工夫されている。また、〈まとめる・深める・学びを活用する〉では、室外から室内に帰っておやつを食べようとしている人に、どのようなアドバイスをするのかを考えられるよう工夫されている。(P12～13)

〔5・6年〕「不安やなやみへの対処」の〈考える・調べる・話し合う〉では、不安や悩みを抱えた時の対処をみんなで出し合い、他の児童の意見の中で自分もできそうな対処について考えられるよう工夫されている。また、〈まとめる・深める・生活につなげる〉では、他の児童が挙げた不安や悩みへの対処で、参考になったことについて記述することができるよう工夫されている。(P12～13)

- ICT機器を使って、理解を促したり、調べたりできるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕教科書の最初に、それぞれの単元でポイントとなる画像や動画、外部リンクを見ることができるよう二次元コードが示されている。(P4) また、「体の中で起こる変化」では、〈教科書サイト〉マークによって、二次元コードを用いて学習できる箇所が明記されている。(P26)

〔5・6年〕教科書の最初に、それぞれの単元でポイントとなる画像や動画、外部リンクを見ることができるよう二次元コードが示されている。(P4) また、「学校や地域でのけがの防止」では、タブレットを用いて学校で怪我の起こりやすい場所を撮影し、調べてみる活動にふれ、情報機器の活用を促すよう配慮されている。(P24)

- 単元の終わりに、学習したことを振り返り、深め、つなげられるよう工夫されている。

【例】

〔3・4年〕「体の発育・発達」では、学習したことを理解したかどうかをチェックすることができるよう工夫されている。また、体力を高めたり、色々な動きを身につけたりするためにどんなことをしたらよいのかについての記述欄がある。さらに、学習したことを生

活に生かせること、もっと学習したいと思ったことを記述することができるよう工夫されている。(P34)

[5・6年]「けがの防止」では、学習したことを理解したかどうかをチェックできるよう工夫されている。また、様々な場面を例に挙げ、考えたり、確認したりすることができるよう工夫されている。さらに、学習したことを生活に生かせること、もっと学習したいと思ったことを記述することができるよう工夫されている。(P32)

- 絵図を用い、例を比較したり、乱れた生活をするるとどのようになるのかについての流れを示したりすることで、よい生活とは何かが理解しやすいよう工夫されている。

【例】

[3・4年]「1日の生活のしかた」では、整ったリズムで生活している人と乱れたリズムで生活している人を比較することで、規則正しい生活をするための時間の使い方が理解できるよう工夫されている。(P8)

[5・6年]「薬物乱用の害」では、薬物乱用防止について、薬物を使用した時に、依存症になるまでの流れが絵図で示されており、薬物を乱用してはいけない意味が理解できるよう工夫されている。(P51)

- 保健学習を行う意味を明記したり、身近な課題を取り上げたりすることで、主体的に学習することができるよう工夫されている。

【例】

[3・4年]保健学習の導入にあたり、一人一人が「限りない能力」と「自分らしさ」をもっていることを示し、健康が夢を叶えるための土台になっていることが説明されている。(表紙裏)

[5・6年]「けがの防止」では、発展的な内容として、「自然災害や緊急事態に備えて」について取り上げられている。自然災害や緊急事態にはどのようなことが起こるのか、災害に備えてどのようなことができるのか、災害が起こった時にはどうすればよいのかについて、自分の生活をもとに考えられるよう工夫されている。(P28～29)

- 学習活動をさらに充実させるために、他の教科や運動領域との関連が図られている。

【例】

[3・4年]第5学年の理科で学習する人の誕生と関連をもたせて学習することができるよう、「体の発育・発達」の「もっと知りたい調べたい」では、新しい命の誕生について取り上げられている。(P29)

[5・6年]「不安やなやみへの対処」では、不安や悩みへの対処の方法として、体ほぐしの運動を行うとよいことにふれている。＜関連＞マークを用い、体ほぐしの運動は体の調子に気づいたり、気持ちをほぐしたりできる効果があることを説明している。(P13)

2 使用上の便宜

- 原則1単位時間の学習内容が見開き2ページで構成されており、学習の流れの見通しをもつことができるようになっている。
- 版型は全ページカラー印刷のA4版である。また、環境に配慮した用紙が使われるとともに、2年間の使用に耐えられるよう整本されている。
- 目次において、資料の中身についても記載されており、児童の興味・関心を喚起しやすくしている。児童が実生活に生かすことができる内容等が脚注で示されている。
- 児童にとって学習しやすい書体、色、表現、配列は、ユニバーサルデザインに配慮して作成されている。